

# 月報 岡崎の教育



**8月号**

平成4年8月1日  
発行/編集  
岡崎市教育委員会

六十六の温かな瞳に包まれて  
生まれたばかりのあげはちようが  
太空へ飛びたつた

ふんわり  
青空にまるを一つえがいて

教室に舞いもどつた

どうにもふんぎりのつかないちようは  
優しい色した風にのつて  
子どもたちの頭上をゆっくり舞う

ふわり  
はじめまして

ひらり  
お世話になりました

それから  
三十三の小さな胸に  
あげはのブローチを置きみやげにして  
澄みきった大空のむこうの  
明日に向かって  
翔いて行つた

(あげはちよう)



(ハトもともだち「町の探検より」) - 根石小



一 想 隨 教 育

## ユーロ・ディズニー・リゾート

おかざき世界子ども美術博物館長

長 谷 川 栄

子ども美術館まで、拙宅からは三五〇

かろうか。

料の道のりだが、このごろではアクセルも軽く往復してしまう。通うたびに岡崎の良さが分かり、子ども美術館の成長ぶりを見るのが何より楽しみだからである。

美しい自然に囲まれた丘の上の理想郷

市長様はじめ、市議会、市のスタッフ、さらに市民皆様からの温かい御理解と支援があつてはじめて軌道に乗せることができたのだと感謝している。

世界の類似施設を訪問し、調査して参考となる運営ノウハウを求めて歩くが、

ごく最近は開園したばかりの「ユーロ・ディズニー・リゾート」を訪れた。

パリから東へ三十二料のマルヌ・ラ・ヴァレに広がる一九四三ヘクタールのア

ミューズメント・パークだが、中心の遊

園施設の充実もさることながら、周辺の

静かなリゾート環境の洗練された整備の

状況には舌を巻いた。五五五ヘクタール

の広大な森林公園内には、一八〇か所のキャンピング場が開設され、四〇〇台のキャンピング・カーを停泊できる施設も完備している。あの商業主義豊かな東京ディズニーランドとは似て非なるイメージなのである。

遊園地を取り巻くさまざまなスタイル

のホテルも、利益追求を無視した家族旅

行向きのもので、アーリイ・アメリカン

調からイギリス海浜リゾート・スタイル、

さらに開拓時代のコテージにいたるまで、

四人の親子連れが長期に滞在したところ

で負担が少い料金設定である。これらが

美しい湖水を中心に充分な広さに展開し、

あの狂気のような遊園地の騒音を遠ざけ

て安息の空間を与える。

ミュージアム・ショップも教育施設の

延長と考え、キャラクター商品よりも、

グッド・デザインの歴代の名車の実物や、

ファッショング・家庭の道具などがずつし

りと貴重を示して並べられ、買物のあい

だにも、いつしかデザインの変遷を学ぶ

ように行き届いた心遣いがみられ、なる

ほどと思った。アメリカ文化を受け容れ

るフランス人たちの賢い選択というべき

だろう。

(はせがわ さかえ)

今、国語教室では  
国語科指導員 野勢 明



「うさぎさんは、どこから、どんなふうに出てきたか、教えてください。」

K先生の問いかけに、「あら、おいしそうにおい」と言つて出てきました。

うさぎのお面をつけたH君が、動作をまねて答える。すかさず、草むらから、あらかじめ隠されていたかわいいペーパーサートが現れる。思いがけない登場に、子どもたちの大歓声があがる。

続いて、りすの場面では、

「木の上から出でてきました。」

と、想像で答えるK君に、「どうして木の上から出でてきたって分か

るの。」

と切り返す。K君は、教科書をじっと見

る。やがて、「肩にとびおりました」と

いう表現に気づく。そこで、子どもたちの関心は、りすがどこから現れるかに集

まり、先生の動きに注目する。なんと、りすさんのペープサートは、黒板の上か

らく世界でも稀れにみるほどの、しつくツ子ファンを集めているようである。恐りした教育環境が生まれているのではな

り、参加型のフレッシュな創造体験を繰り広げている。今夏はロボットの特別展もあるって、子どもたちの未来の夢を刺激するためか、いつもより一層過熱にチビ

ミユーズメント・パークだが、中心の遊園施設の充実もさることながら、周辺の

静かなリゾート環境の洗練された整備の

状況には舌を巻いた。五五五ヘクタール

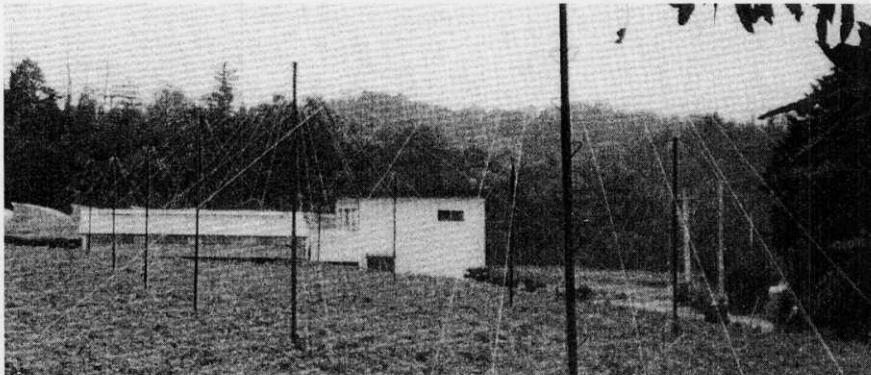
と切り返す。K君は、教科書をじっと見

る。やがて、「肩にとびおりました」と

いう表現に気づく。そこで、子どもたちの関心は、りすがどこから現れるかに集

まり、先生の動きに注目する。なんと、りすさんのペープサートは、黒板の上か



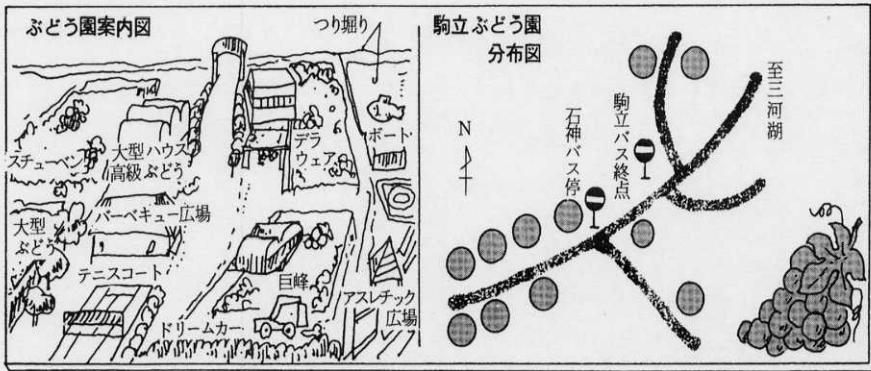


岡崎  
再見

71

## 変わりゆく

### 駒立のぶどう狩り



栽培をはじめたのは、昭和二十四年。駒立は耕地面積も少なく、田んぼも小さく、労働生産性が低いので米にかわるものをと始めたのがきっかけだという。ぶどう狩りは昭和三十五年から。現在では、年間約六万人が訪れるという。

この山村まで人が来るかどうか、共同でやれるか、採算はどうかと苦労が多かったこと、これからは、ただぶどう狩りだけではなく、レジャーセンターとして開発したいと未来を展望してくれた。

月報「岡崎の教育」99号（昭和五十六年八月号）より抜粋

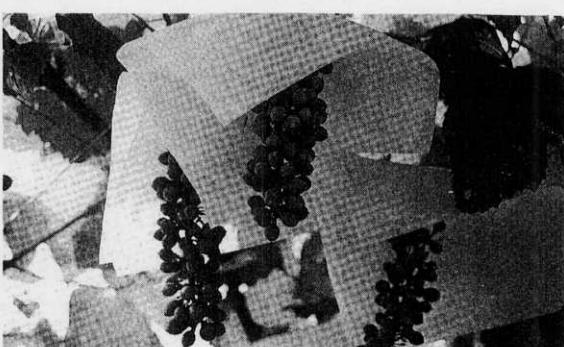
これは、十一年前の本欄に記された「駒立のぶどう狩り」についての記事である。ぶどう狩り農家が展望する農園の未来像が語られている。

現在、駒立のぶどう狩りは、岡崎の有名な観光農業として定着し、県外からのお客様を迎えるまでに発展してきた。この十一年の間に、農園経営が大きく変わってきたことがうかがえる。どんな工夫や改善がされてきたかを知るために、十一年前と同じ、前駒立ぶどう狩り組合長中根武夫さんの農園を訪ねた。

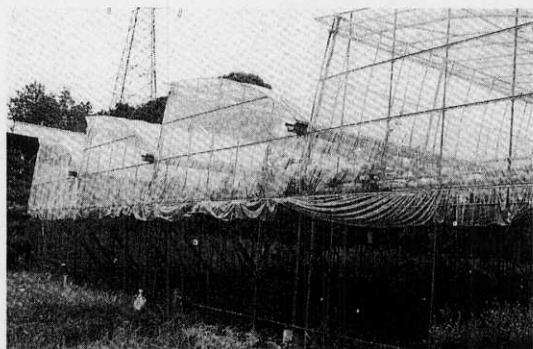
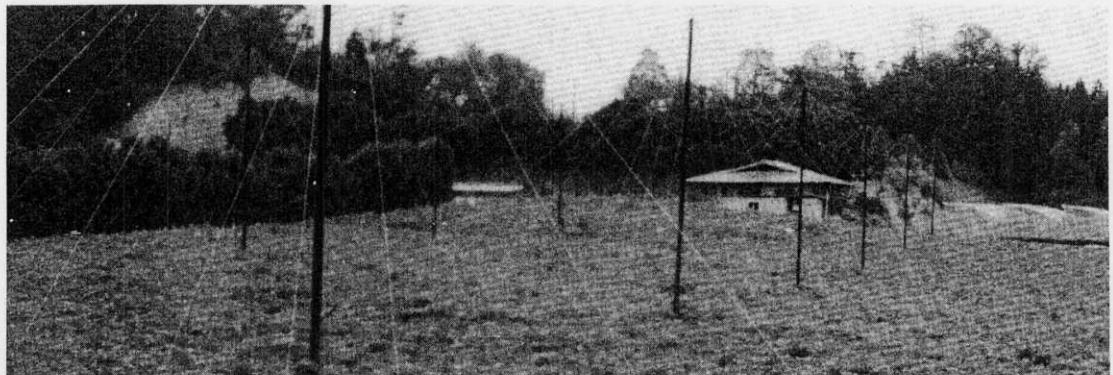
組合に加入している農家は十戸。若干



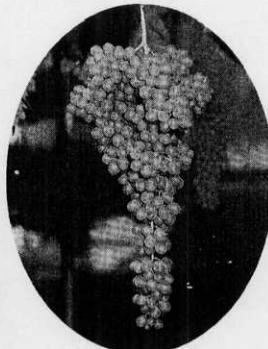
▲ 過熟したぶどうの間引き。昔と変わらぬ作業風景



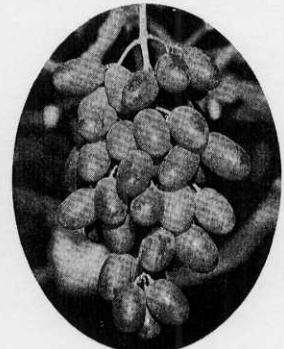
▲ 一房一房に防水紙をかぶせる陣笠掛け。全て手作業



▲ 珍しい品種、高級品種を15種類栽培している温室



▲ 中近東原産「ネヘレスコール」



▲ 旧ソ連原産「リザマート」



- ◆ 美しい清潔な農園づくり。棚の下の整地、県の補助金によるトイレの改築
- ◆ 家族いこいの場づくり。パーベキュー場の設置、お土産用ぶどうの宅配化
- ◆ フィールドアスレチック場



▲ ぶどう狩りをしながらのバーベキュー。家族だんらんの場



▲ ぶどう狩りの合間に魚つりができるつり堀り

減少気味である。後継者不足が主な理由のこと。農園経営の重点を、「いかに長い時間楽しんでもらえるか」に置いているという。「ぶどうを食べるだけならせいぜい二時間ですよ。もつと長く楽しんでもらう方法を考えなければお客様は来てくれません」と話された。中根さんは次の点で工夫が見られた。

・美しい二時間ですよ。もつと長く楽しんでもらう方法を考えなければお客様は来てくれません」と話された。中根さんは次の点で工夫が見られた。

・美しい清潔な農園づくり。棚の下の整地、県の補助金によるトイレの改築

・家族いこいの場づくり。パーベキュー場の設置、お土産用ぶどうの宅配化

・温室栽培による珍しい品種の販売

・フィールドアスレチック場



## 成長したR男

六中小 板倉 正子

R男は、些細なことを気にし、自分から人の前に立つことができないと聞いていた。五年生になつたR男は、運動もよくでき、学力も高い。しかし、教室ではうつ向き気味で、発言も「全員一発言」という学級目標にもかかわらず、最後になってやつと発言するという状態だった。

第一回目の班長会でR男が、「おやつを作つて、みんなでお店屋さんごっこをしよう。」という提案をした。おもしろいアイデアで、他の班長もすぐ飛びついた。提案者があのR男だ

五年生になつたばかりで、調理実習の野菜サラダすら學習していないのに、おやつを作ることができるだろうかと不安に思つた。しかも、自分の班の分だけではなく、他の班の分を考えると、最低五十個は作らなければならぬだろう。子どもたちは、料理の本と首つ引きで分量、分担、作り方を検討し合つた。

R男の班は団子屋。その他、ホットサンド屋、たこ焼き屋、カナッペ屋等が決まつた。値段を決め、お金にする牛乳のふたを集めるのが大変だった。けれども、R男たちは、指示しなくても他の組へたびたび牛乳のふたを集めに回つた。また、学級会が二時間しかとれないことを聞くと、さつそくR男は、A男と共に家で試しに作つてみた。そして、翌日、

## 日韓の間の教育

ソウル日本人学校 大山 敬章

ソウル日本人学校小学校部児童二六〇名 特色としては、カリキュラムに英会話と韓国語がある。また児童数の約十パーセントが在日韓国人などの外国籍児童で、世界に目を向けた国際的

# ふれあい



つたので私も驚いた。さらに、みんなでこの提案を練り、グループごとの店で作つたお金でおやつを買い、売り上げ高を競い合うことになった。

五年生になつたばかりで、調理実習の野菜サラダすら學習していないのに、おやつを作ることができるだろうかと不安に思つた。しかも、自分の班の分だけではなく、他の班の分を考えると、最低五十個は作らなければならぬだろう。子どもたちは、料理の本と首つ引きで分量、分担、作り方を検討し合つた。

R男の案で行つた会は大成功だった。彼を認めた級友の熱い眼差しの中で、R男の自信に満ちた顔は、晴れ晴れとしていた。

R男の母親は、現地校だつたので日本語の能力に劣り、教科書も読めず、いつも一人でぱづんとしていることが多かつた。

A男の母親は、在日時代に日本人と結婚したが今は離婚しているようで、A男は韓国で生まれ父親を知らない。おまけに幼稚園は現地校だつたので日本語の能力に劣り、教科書も読めず、いつも一人でぱづんとしていることが多かつた。

五月に入り家庭訪問の時がきた。A男の家の近くまで行くとA男が近所の韓国の子たちとサッカーをしていた。流暢な韓国語を使い、まるで親分気取りでボールを追いかけていた。教室では見られないはつらつとした姿であった。私が「A君うまいね」と言うと、にこっと笑つて「ぼく体育すきだよ。テコンド(韓国固有の格技)も一段だよ。」

ソウル日本人学校小学校部児童二六〇名 特色としては、カリキュラムに英会話と韓国語がある。また児童数の約十パーセントが在日韓国人などの外国籍児童で、世界に目を向けた国際的な学校をめざしている。

私の担任は三年生で、二クラス合計五十二名のうち、在日韓国人の子は六名いる。この子たちはも自由な校風の中で、日本人と変わりなく生活している。その中で一人気になる児童がいた。A男である。

A男はびっくりしていたが、期待通り見事な型を披露してくれた。それからというのもA男は皆から引張りだこであった。その時のA男は、あの広場で見たA男の姿と同じであった。

本校の在日韓国人児童は伸び伸びと生活しているが、日韓の微妙な関係の間で、ともするとどちらからも外国人扱いされることもある。この子たちを活かすような教育がこれから的新しい教育の役目ではないだろうか。





• 表紙写真

根石小

金 杉 松  
沢 木 浦  
一 順 良  
幸 子 昭

昭和十四年 日本初の携帯ラジオが新案特許を受け発売された。電池内蔵で大きさは重箱ほどである。ただスピーカーがないためイヤホーンを使わなくてはならない。

ラジオ放送の歴史を調べると、明治三十九年、アメリカ国内で行われたのが世界最初のこと。日本では大正十四年、愛宕山局舎から初放送されている。また同年、国産第一号のラジオが発売されたが当時はまだ携帯型のものは発表されていなかつた。昭和三十年にはトランジスタ

ラジオが、その十二年後には、C搭載の超小型ラジオが次々と発売されてきた。

近年、視聴覚機器の発達と普及が目覚ましい。特に学校教育においては多くの指導現場でその恩恵を受けている。写真の携帯ラジオが作られた当時は、部品の入手が困難なため手作りの箇所も多いとのこと。苦労のほどがしのばれる。

この携帯ラジオの発明者は、岡崎市の阿部又一氏（一九〇〇～一九五五）である。



阿部弥一氏藏

# 携帯ラジオ

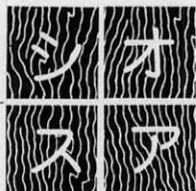
集団の中で生かされたとき、人は生きがいを感じるのである。何よりもリーダーになることではない。目立たない端役であっても、自分の全力を發揮できやりとげるものであればよい。子どもを生かすためには、子どもを支える仲間づくりや集団づくりが基盤として考えられなければならない。

重々しい仏壇に備わる各種の彫刻。一つの仕事を完成させるには、一年以上の期間が必要だそうだ。木の選別、図案の考案、部分彫り、それらの重ね合わせ。手本はない。自分の力だけが頼りだ。

仏壇の美しさは、精根を傾けてできた物の美しさ。それは、天職を全うする職人魂の輝きである。

スケジュールを終えた先進国首脳が、会場前に並んで記念撮影。ミュンヘンサミットの模様がテレビで伝えられた。その後、アメリカ大統領と通訳なしで対談する我が国の首相の姿が映し出されてきた。事のは是非は別にして、この姿を見て、何故か頼もしく思えたのは私だけだろうか。

青は夏を象徴する色の一つである。輝く海を表すマリンブルーも、日本語では納戸色と呼ばれることがある。同じ色でも様々な呼び名がある。これは一人の子供が見せる姿と同じではないだろうか。その時々、一瞬に色を変える子どもたちの姿を見極める眼を大切にしたい。



*子育ての土俵	もりた	なるお
産経新聞社		¥1200
*心の砂時計	遠藤	周作
文藝春秋		¥1100
*こころの処方箋	河合	隼雄
新潮社		¥1100
*私が聴いた名講義	南	伸坊
一季出版		¥1480

※慶弔俳句目録 江国 滋  
新潮社 ￥1500

親しい人の記念パーティーや祝いの会などで、ちょっと気のきいた俳句の一つも詠めたらいいだろうに、とひそかに考えている人は、想像以上に多いようである。

本書には、慶事、弔事に遭った人たちに贈る、いわゆる「挨拶句」238句が納められている。従来、挨拶句といわれるものは、身近な、ごく親しい人に贈るものであったが、ここでは、無名の市井の人も対象にしている。俳句の新しいジャンルを開拓したものとして、楽しめる